

インパクト志向金融宣言

Japan Impact-driven Financing Initiative

第3回ワーキングレベル会合が開催されました

インパクト志向金融宣言の第3回ワーキングレベル会合が、2022年7月25日(月)10:00~12:00に、オンラインとリアルなハイブリッド形式で開催されました。当日は、署名機関32社、国内の賛同機関の4団体に加え、本宣言への加盟を検討中の金融機関のオブザーバーを含む、計75名が参加しました。



第3回ワーキングレベル会合では、新規参加機関の紹介、インパクト投資に関する動向アップデート、各分科会からの報告、運営委員会からの報告、今後の予定共有を行いました。

1. 新規参加予定機関の紹介

2022年6月1日付けで署名した株式会社みずほフィナンシャルグループ並びに株式会社ファストトラックイニシアティブ、7月1日付けで署名したティー・ロウ・プライス・ジャパン株式会社より、本イニシアティブへの期待やインパクトファイナンスに関連する自社の取り組みなどについて、コメントを頂きました。

2. インパクト投資に関する国内外の動向アップデート

今年に入ってから、金融庁の「ソーシャルボンドのインパクト指標（社会的な効果に係る指標）」や経団連のインパクト指標、また、政府経財政諮問会議「経済財政運営と改革の基本方針2022」（骨太方針2022）に「インパクト投資」の文言が盛り込まれたことなど、「インパクト」に関連する様々な情報が発表されている状況を踏まえ、事務局より各文書の概要や最近の動向について共有しました。インパクトが共通言語となっており、またフレームワークや指標が次々と発表され実践に組み込まれはじめているといった状況を解説しました。

3. 分科会からの報告

インパクト志向金融宣言の枠組みのもと計7つの分科会が立ち上がり、それぞれの活動が開始されました。以下のとおり、各分科会の座長・副座長より活動状況を報告して頂きました。

【地域金融分科会】

- ✓ 7月12日に第1回分科会を開催し、分科会で今後何をしていきたいか等を議論。当分科会の特徴として、直接・間接金融の双方を含み規模や営業エリアが様々な金融機関が集まっていることが挙げられるが、地域活性化、地方課題の解決、金融機関による地域貢献という思いが一致している。また、地域金融機関全体にインパクトの考えを広めていきたいとの思いもある。
- ✓ 第1回分科会で座長・副座長から、地域金融における直接・間接金融の接合や、共通KPIの設定を議論してはどうかと発信した。地域のインパクトファイナンス底上げのためには好事例や共通の認識づくりが必要であると考えており、インパクトを軸にデッドとエクイティの融合を図るところを念頭に、まずは次回静岡銀行の取組みを紹介し、今後はファンドの取組共有も開始していく予定。

【Social 指標分科会】

- ✓ これから第1回キックオフミーティングを開催予定。昨今 ESG の「S」への関心が高まってきており、政府も人的資本を重視し始めているなど、ソーシャルの視点は必要不可欠との認識のもと、S 指標を通じて地域金融の活性化を目指していく。地域金融分科会とも連携していく予定。
- ✓ グローバル目線でも、「S」の観点が重要な論点となっており、SIMI 今田さんや水口先生からもアドバイスを頂きつつ、金融機関にとっての「S」とは何か、「S」を通じたインパクトとは何かを、グローバル目線・ローカル目線の双方で掘り下げていきたい。好事例も出てきているので、それらも参照しながらイン議論していく。新規参画も歓迎。

【IMM 分科会】

- ✓ 第1回分科会は8月4日に開催予定で、第2回は9月上旬、第3回は9月末に開催予定。第1回はキックオフとして、参加者顔合わせとIMM分科会に関する期待等について意見交換。また、アンケートを取って、参加機関のお悩みポイントや希望を収集していく予定。3回目会合までに、分科会の正式な座長や体制、今後の進め方を決定していく予定。参加者の多い分科会のため、会合を録画して参加機関に共有するなど工夫して進めていく。
- ✓ 金融庁×GSG 国内諮問委員会の分科会では、エクイティに関しては既にガイドブックを発行、今年度はデッドのIMM分科会で活発な議論が行われているため、これら既存の取組みとの連携や役割分担も考えながら進めていく予定。

【海外連携分科会】

- ✓ 7月29日に第1回会合を開催し、顔合わせ及びキックオフを実施予定。分科会の目的や、今後の活動、スケジュール等について、議論を実施予定。参加機関にアンケートを取っており、当分科会でどのようなことを議論したいのかについて意見を収集している。海外から日本へ、日本から海外へ、という2つの軸で活動していく。分科会の性質上、他の分科会にも役立つ活動ができると考えており、「海外のこういうことを知りたい」「発信したい」等があればインプットを頂きたい。
- ✓ 海外に向けた発信としては、6月にブルーマークと共催でイベントを開催、また、UNDP のSDGs Impact ディレクターと議論を実施した。今後、GIIN の上場株インパクト投資ワーキンググループとの連携、今年の後半にオランダで開催されるカンファレンスへの参加・発信について折衝中。

【VC 分科会】

- ✓ 7月上旬に第1回分科会を開催済み。参加者自己紹介、分科会のゴール、活動について議論を実施。分科会の目標としては短期的にはグッドプラクティスの共有・学習を通じた各金融機関のレベル向上、中期的にはVC業界共通のGood practice 例の整備を目指していく。分科会の成果が自分たちの実務にどう落とし込めるか？に関心を持っており、共通の基準等を作って行ければ良いと考えている(投資ステージ、投資領域毎に使用するフレームワークや定量化の手法等)。分科会のTOCという形で整理して、今後インパクト志向金融宣言全体のTOCとどう連携するかを明文化していく。
- ✓ 当面の活動としては、Good practice の共有・学習を通じて各VCの実務レベルの知識向上を高めていく予定。ゲスト講演や調査の共有など、他の分科会とも連携しながら活動していく。

【AO/AM 分科会】

- ✓ AO/AM 分科会はスロースタートで行く計画であり、他の分科会の成果を発信していくアプローチを考えている。インパクト投資の市場の拡大を目指すにあたり、資金供給側、特に大規模なAOが入りにくいという状況があるため、インパクト投資に関わるAO自体の増加を目指していきたい。まずはAOの知見を深めるべく、AMやVCからインパクト投資の現状をご共有頂くという活動を進めていきたい。他の分科会の成果物を用いて他のAOへの啓発も行っていきたいため、VC分科会や他の分科会とも一緒に勉強させて頂く機会を設けていく予定。
- ✓ インパクト志向金融宣言に参加していない金融機関にもオブザーバー参加を呼びかけ、裾野を拡大していくような取り組みを実施していく。年金基金に限らず、生命保険会社や事業会社、政府系の基金も見据えて活動していく。

【定義分科会】

以下 4. を参照

4. 定義・算入基準の議論紹介、議論

事務局より、定義分科会での議論(2022年12月発行予定の第1回プログレスレポートで使用する定義・算入基準)について、議論内容の共有を行いました。これまでの議論を通して、「ポジティブインパクト創出の意図があり、意図にもとづく戦略があること」と「透明性」を必須条件として設定すること、そのうえで、アウトカムの測定(アウトカム測定が難しい場合はアウトプット測定)の有無、ネガティブインパクトの包括的なマネジメントの有無に応じてレベルを分類する案を検討していることを説明しました。論点として、ネガティブインパクトの包括的なマネジメントについてはアウトカム測定よりも先に置くべきではないか(特に、UNEP-FIのフレームワークに基づいて大企業向けのファイナンスを実施する場合等)との意見も挙がっていることを紹介しました。また、このような外形的な基準によってインパクト投資の重要なコンポーネントが見失われるべきではないとの議論に基づき、意図、戦略、透明性、投資家の追加性については明示的に記載していることを紹介しました。

参加機関からは、インパクト志向のファイナンスを日本に広めていくにはポテンシャルとして例えば参加機関の資産残高(AUM)全体を示してはどうか、ポートフォリオ全体戦略としてインパクトを志向している場合にはどのように算入するか(例:IFSIの概念)、1年目はまず本基準にそった金額集計からはじめ、2年目以降にインパクト志向金融経営をいかに測っていくかを検討してはどうか、結果として社会の役にたったファイナンスの実績も測るべきではないか、GPとLPでダブルカウントが生じないような工夫も必要、AUM総計といった外部向けの発信とプログレスレポートでの集計では目的が違うので分けて考えたほうがよい、といった意見や提案が挙がりました。

定義分科会で再度議論を実施し、8月中旬に定義・算入基準を決定する予定です。

5. 運営委員からの報告

委員長の金井氏並びに副委員長の松原氏より、分科会の活動が本格的に始まったことへの期待と、今後分科会の役割が非常に重要になってくるとのコメントを頂きました。

6. 今後の予定・事務局連絡

- ✓ 次回のワーキングレベル会合は10月の予定
- ✓ プログレスレポート用の質問票は9月末を目途に署名機関にご連絡予定
- ✓ プログレスレポートは年内の発表を目指す

資料:

1. 第3回ワーキングレベル会合資料(別添)

以上